

都市再生整備計画 事後評価シート

津和野城下町地区

令和5年12月

島根県 津和野町

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	島根県	市町村名	津和野町	地区名	津和野城下町地区			面積	167ha	
交付期間	平成28年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	1,394百万円	国費率	0.45			
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	事業名								
		基幹事業	地域生活基盤施設：駅前周辺広場、見晴らし広場、駅前駐車場、情報板／高質空間形成施設：モニュメント整備、多目的トイレ／高次都市施設：津和野街並み観光交流センター							
		提案事業	地域創造支援事業：SL駐車場展望施設整備事業／事業活用調査：事業効果分析／まちづくり活動推進事業：JR津和野駅エリアまちづくり活動推進事業							
	当初計画 から 削除した 事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		基幹事業	道路：町道畦田線	令和元年12月に計画変更して削除。柵田交流広場事業の削除により、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正（5%増→3%増）					
		基幹事業	公園：津和野城山公園	令和元年12月に計画変更して削除。埋蔵文化財調査、大手門等の復元のための検討委員会の実施等、事業に時間を要することから、期間内で実施することが難しく削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正（5%増→3%増）					
		基幹事業	地域生活基盤施設：観光交流広場	平成29年12月に計画変更して削除。他の事業を活用し、整備検討を行う方針となり、本計画からを削除。	他事業で実施するため、指標への影響なし。					
		基幹事業	地域生活基盤施設：柵田交流広場	令和元年12月に計画変更して削除。埋蔵文化財調査、その後の関係機関との調整に時間を要することから、期間内で実施することが難しく削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正（5%増→3%増）					
		基幹事業	地域生活基盤施設：柵田広場駐車場	令和元年12月に計画変更して削除。柵田交流広場事業の削除により、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正（5%増→3%増）					
		基幹事業	高質空間形成施設：遊歩道整備	令和元年12月に計画変更して削除。柵田交流広場事業の削除により、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正（5%増→3%増）					
		基幹事業	高次都市施設地域交流センター：多世代多文化交流センター	令和元年12月に計画変更して削除。当事業で予定していた既存建築物の改築に合わせて行う耐震補強の工事に多額の費用が必要であり、他の建物で検討見直しを行うこととなったことから、本事業を削除。	外国人観光客の誘客を図る中心事業であったため、「外国人観光客の宿泊者数」の指標を削除。					
		提案事業	地域創造支援事業：SL駐車場展望施設整備事業	JR西日本により整備が行われることとなったため、令和元年12月に計画変更して関連事業に移動。	関連事業で整備されていることから影響なし					
		提案事業	地域創造支援事業：歩行者通路整備事業	平成29年12月に計画変更して削除。JR西日本が実施予定であった跨線橋整備が中止され、併行して行う予定であった本事業も事業中止。	歩行者動線の代替案を検討するため、影響なし。					
		提案事業	地域創造支援事業：柵田景観整備事業	令和元年12月に計画変更して削除。柵田交流広場事業の削除により、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正（5%増→3%増）					
		提案事業	まちづくり活動推進事業：津和野城大手エリアまちづくり活動推進事業	令和元年12月に計画変更して削除。津和野城山公園の整備事業を削除することになり、まちづくり活動を行うことが出来なくなったため、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正（5%増→3%増）					
		提案事業	まちづくり活動推進事業：柵田広場エリアまちづくり活動推進事業	令和元年12月に計画変更して削除。柵田交流広場の整備事業を削除することになり、まちづくり活動を行うことが出来なくなったため、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正（5%増→3%増）					

1)事業の実施状況	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設:稲成丁河川広場	平成29年3月に計画変更して追加。JR津和野駅から太鼓谷稲成神社までの道路は参道として位置付けられており、特に観光客が多い場所である。参道沿いの津和野川周辺に憩いの場を整備し、観光客の回遊性や利便性の向上を図るため事業を追加。				インバウンド対策を含む、観光客の利便性及び回遊性の向上が図られることから、指標として「外国人観光客数の宿泊者数」を追加。				
		基幹事業	地域生活基盤施設:駐輪場整備	平成29年3月に計画変更して追加。自転車による観光促進に備え、地区内に駐輪場を整備。まちの回遊性を高め、観光客の利便性向上を図る。				インバウンド対策を含む、観光客の利便性及び回遊性の向上が図られることから、指標として「外国人観光客数の宿泊者数」を追加。				
		基幹事業	高質空間形成施設:町道稲成丁線	平成29年3月に計画変更して追加。JR津和野駅から太鼓谷稲成神社までの道路は参道として位置付けられ、各種事業により整備が進められてきた。当路線は唯一、未整備で残されており、舗装を高質化することで、参道としての連続性を確保し、観光客の回遊性の向上を図る。				インバウンド対策を含む、観光客の利便性及び回遊性の向上が図られることから、指標として「外国人観光客数の宿泊者数」を追加。				
		基幹事業	高質空間形成施設:照明施設	平成29年3月に計画変更して追加。日本遺産認定を受けて国内外からの観光客が増加。滞在型観光推進のため、夜のまちの回遊性向上を目指し、重要伝統的建造物群保存地区内のメインストリートに照明を整備。				インバウンド対策を含む、観光客の利便性及び回遊性の向上が図られることから、指標として「外国人観光客数の宿泊者数」を追加。				
		提案事業	地域創造支援事業:JR津和野駅舎整備事業	平成29年12月に計画変更して関連事業から移動。町の玄関口としての整備効果を高めるため、JR西日本主体の事業から町主体の事業に移行。				JR津和野駅内に整備する「観光案内所の利用者数の増」について指標を追加				
	交付期間の変更	当初	平成28年度～令和2年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
変更	平成28年度～令和3年度											

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
					基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	JR津和野駅の乗車人員	人/日	231	H26	280	R3	196 (H30)	132 (R3)	×	あり		駅舎改修や駅前広場の整備が令和4年度に完了したことで広場でのイベント等の開催が増え、賑わいの創出を図ることができている。一方で、SLやまぐち号故障のための運休に影響を受け、見込んでいた乗車数を下回り、目標を達成できなかった。数値の傾向としては、SLが運休している令和3年では132人/日に対し、SL運休前の平成26年では231人/日と顕著に差が表れており、令和5年度よりSLの試運転も行われ、運転再開の兆しが見えていることから、今後SL復旧後には乗車人数が増加する見込みである。副次的な効果として、駅前広場をイベント等で活性化させることにより、津和野駅と紐づけし利用普及を行う予定である。	●
	指標2	駅前町営駐車場の年間利用台数	台/年	4,623	H26	6,000	R3	7514 (H30)	7302 (R3)	○	あり		駅前駐車場整備事業規模を拡大し、駐車台数を増加したことに加え、駅舎改修、駅前周辺広場整備事業によるイベント増、町道稲成丁線・河川広場整備事業、照明整備事業による観光の軸としての参道整備に加え、その中心に位置する養老館改修により歴史ある街並みや建物、文化をいかした誘客に取り組むことで、駅を拠点としたまち歩き需要が推進されたことが、目標値の達成に作用したものと考えられる。	
											なし			
	指標3	地域住民の定住意欲の割合	%	55.4	H25	58	R3		68 (R3)	○	あり		駅前周辺広場整備事業による玄関口の整備、町道稲成丁線・河川広場整備事業、照明整備事業による観光の軸としての参道整備に加え、その中心に位置する養老館改修により歴史ある街並みや建物、文化をいかした景観形成が図れたことなどが、目標値の達成につながっている。	
											なし			
	指標4	観光案内所の利用者数	人/年	12,100	H28	15,700	R3	10029 (H30)	6802 (R3)	×	あり		整備後もなくであり、十分な効果を発揮できていないこと、SLやまぐち号の運休による利用者数減の影響を受け、目標値を下回ったが、次の理由により増加することが予想される。観光案内所が人目に多く触れるよう、駅構内の人通りの多い箇所へ配置した。また、JRから委託される形で、同駅構内に切符の窓口販売を設けることで、JR利用者や観光客が気軽に立ち寄れる施設となるようにした。副次的な効果として、駅周辺を整備したことによりイベント等の活用が想定されるため、観光案内所と紐づけを行い利用普及を行う予定である。	●
											なし			

	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値				
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	拠点観光施設(養老館)の 入り込み数	人/年	3,689.0	H27			2096 (H30)	5798 (R3)			街なか回遊の拠点エリアにある養老館の一時利用者が増加傾向にある。津和野城下町エリアとしての魅力向上により、交流人口が増加していると考えられ、事業の効果が発現していると言える。	
	その他の 数値指標2			—	—								
	その他の 数値指標3												
4)定性的な効果 発現状況	・電動自転車のシェアサイクルの実証実験の実施により、電動自転車のレンタル需要を確認することができ、電動自転車を利用した津和野体験プログラムの実施など、地域の主体的な活動の推進につながった。地域住民と来訪者の交流機会の創出にもつながっている。 ・駅前広場整備後、開通100周年・鶴外没後100周年イベントをはじめ、地域主体の芋煮の振舞、クリスマスイベント、警察の出動式等、広場を活用した様々なイベントが実施され、地域住民及び来訪者の出会いと交流、駅前の賑わい創出につながっている。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		歴史的風致維持向上協議会における都市再生整備計画の取組状況の報告。 指標の達成状況を確認				都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	引き続き、指標の状況を歴史的風致維持向上協議会において確認する。		
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	官民連携による取組の 実施状況		JR西日本と協力・連携して駅舎改修に取り組む				都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	駅舎の運営は、津和野町観光協会を中心とした、地域主導による体制で行い、町は後方支援を行う。		
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
			事業の取組効果等を検証する住民アンケートの実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	公共施設整備等の検討にあたり、必要に応じて市場調査やワークショップ等を実施し、住民ニーズの把握に努めていく。		
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり 体制の構築		ガイドの育成を進め、地区の魅力を発信するための体制づくりを推進				都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	住民がまちづくりに参加しやすい環境整備を進めるとともに、住民が相談しやすい行政組織となるように努めていく。		
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
			各地区の事業の推進にあたっては、関係機関・団体を中心とした管理体制を構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	津和野町観光協会を中心とした、地域主導による体制で行い、町は後方支援を行う。		
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

[illegible]

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●		失われた文化財の整備・復元や景観疎外要因となっていた廃屋、棚田などを整備し、観光のまちとして魅力のある賑わい空間を実現させる。	「棚田」を削除。	令和元年12月に計画変更して削除。 基幹事業であった棚田交流広場の整備が、埋蔵文化財調査、その後の関係機関との調整に時間を要することから、期間内で実施することが難しく、それと一体的に行う予定だった棚田景観整備事業等を全て当計画から削除したため、目標からも棚田整備を削除。
B. 目標を定量化する指標	●		「JR津和野駅の乗車人員」、「駅前町営駐車場の年間利用台数」、「地域住民の定住意欲の割合」の3項目を指標として設定	「観光案内所の利用者数」を指標として追加。	平成29年12月に計画変更して追加。観光案内所を駅舎内に移転するにあわせ、駅舎改修を行うことで観光客の利便性向上が期待できることから、観光案内所利用者数の増加を指標に追加。
C. 目標値	●		「地域住民の定住意欲の割合」の数値目標について、従前値から5%増を目指す。	数値目標を3%増に下方修正。	歴史的資産の整備により、地区内住民の定住意欲を増加させる予定であったが、棚田交流広場の整備、津和野城山公園の整備など文化財の復元等による歴史的資産の整備を一部行わなくなったため、「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正(5%増→3%増)。
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成 見込み
道路	町道畦田線	15	L=150m		なし	令和元年12月に計画変更して削除。棚田交流広場事業の削除により、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正(5%増→3%増)		
公園	津和野城山公園	152	A=59.2ha		なし	令和元年12月に計画変更して削除。埋蔵文化財調査、大手門等の復元のための検討委員会の実施等、事業に時間を要することから、期間内で実施することが難しく削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正(5%増→3%増)		
地域生活基盤施設	駅前周辺広場	87	A=1,750㎡	328	A=4,480㎡	平成29年3月に計画変更。観光客の利便性向上のための回廊を整備するため事業面積及び事業費増。平成29年12月に計画変更。駅前広場の回遊性を高めるため、事業面積及び事業費増。令和3年1月に計画変更。地元要望により、高齢者に配慮した施設整備を行うため事業費増。	駅周辺の魅力向上に関連するため、JR津和野駅内に整備する「観光案内所の利用者数の増」について指標を追加。	●	
地域生活基盤施設	見晴らし広場	156	A=5,300㎡	156	A=5,000㎡	用地交渉の結果を踏まえ、面積修正。	影響なし	●	
地域生活基盤施設	観光交流広場	97	A=3,500㎡		なし	平成29年12月に計画変更して削除。他の事業を活用し、整備検討を行う方針となり、本計画から削除。	他事業で実施するため、指標への影響なし。		
地域生活基盤施設	稲成丁河川広場		なし	20	A=250㎡	平成29年3月に計画変更して追加。JR津和野駅から太鼓谷稲成神社までの道路は参道として位置付けられており、特に観光客が多い場所である。参道沿いの津和野川周辺に憩いの場を整備し、観光客の回遊性や利便性の向上を図るため事業を追加。	インバウンド対策を含む、観光客の利便性及び回遊性の向上が図られることから、指標として「外国人観光客数の宿泊者数」を追加。	●	

地域生活基盤施設	棚田交流広場	30	A=1,000㎡		なし	令和元年12月に計画変更して削除。埋蔵文化財調査、その後の関係機関との調整に時間を要することから、期間内で実施することが難しく削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正(5%増→3%増)		
地域生活基盤施設	棚田広場駐車場	2	A=250㎡		なし	令和元年12月に計画変更して削除。棚田交流広場事業の削除により、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正(5%増→3%増)		
地域生活基盤施設	駅前駐車場	8	A=650㎡	18	A=1,400㎡	平成29年3月に計画変更して事業面積、事業費増。駅を基点としたまち歩きを推進するため、駅前駐車場の面積拡大、事業費増。	影響なし。	●	
地域生活基盤施設	駐輪場整備		なし	24	N=4箇所	平成29年3月に計画変更して追加。自転車による観光促進に備え、地区内に駐輪場を整備。まちの回遊性を高め、観光客の利便性向上を図る。	インバウンド対策を含む、観光客の利便性及び回遊性の向上が図られることから、指標として「外国人観光客数の宿泊者数」を追加。	●	
地域生活基盤施設	情報板	6	N=14基	92	N=57基	平成29年3月に計画変更して設置数及び事業費増。日本遺産認定を受けて国内外からの観光客が増加。まちなか(とくに重伝建地区)の回遊性を高めるため、区域内のサインを増設、それに伴う工事費増。	インバウンド対策を含む、観光客の利便性及び回遊性の向上が図られることから、指標として「外国人観光客数の宿泊者数」を追加。	●	
高質空間形成施設	モニュメント整備	22	N=1基	22	N=1基	なし	—	●	
高質空間形成施設	遊歩道整備	16	L=450m		なし	令和元年12月に計画変更して削除。棚田交流広場事業の削除により、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正(5%増→3%増)		
高質空間形成施設	町道稲成丁線		なし	53	L=150m	平成29年3月に計画変更して追加。JR津和野駅から太鼓谷稲成神社までの道路は参道として位置付けられ、各種事業により整備が進められてきた。当路線は唯一、未整備で残されており、舗装を高質化することで、参道としての連続性を確保し、観光客の回遊性の向上を図る。	インバウンド対策を含む、観光客の利便性及び回遊性の向上が図られることから、指標として「外国人観光客数の宿泊者数」を追加。	●	
高質空間形成施設	照明整備		なし	121	N=31基	平成29年3月に計画変更して追加。日本遺産認定を受けて国内外からの観光客が増加。滞在型観光推進のため、夜のまちの回遊性向上を目指し、重要伝統的建造物群保存地区内のメインストリートに照明を整備。	インバウンド対策を含む、観光客の利便性及び回遊性の向上が図られることから、指標として「外国人観光客数の宿泊者数」を追加。	●	
高質空間形成施設	多目的トイレ整備	76	N=3箇所	169	N=2箇所	令和元年12月に計画変更して設置箇所減。棚田交流広場の計画削除に伴い、広場に計画予定であった多目的トイレを中止。令和3年1月に計画変更。増加する観光客対策として便器数及び質の向上を図るため事業費増。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正(5%増→3%増)	●	
高次都市施設 観光交流センター	津和野街並み観光交流センター	58	A=200㎡	193	A=200㎡	令和3年1月に計画変更して事業費増。JR駅舎改修の詳細計画が決定し、当事業と提案事業であるJR津和野駅舎整備事業の事業費割合に変更が生じたため。	影響なし	●	
高次都市施設 地域交流センター	多世代多文化交流センター	78	A=1,455㎡		なし	令和元年12月に計画変更して削除。当事業で予定していた既存建築物の改築に合わせて行う耐震補強の工事に多額の費用が必要であり、他の建物で検討見直しを行うこととなったことから、本事業を削除。	外国人観光客の誘客を図る中心事業であったため、「外国人観光客の宿泊者数」の指標を削除。		

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成 見込み
地域創造支援事業	SL転車場展望施設整備事業	34	A=1,000㎡		なし	JR西日本により整備が行われることとなったため、令和元年12月に計画変更して関連事業に移動。	関連事業で整備されていることから影響なし		
	歩行者通路整備事業	16	L=140m		なし	平成29年12月に計画変更して削除。JR西日本が実施予定であった跨線橋整備が中止され、併行して行う予定であった本事業も事業中止。	歩行者動線の代替案を検討するため、影響なし。		
	棚田景観整備事業	21	-		なし	令和元年12月に計画変更して削除。棚田交流広場事業の削除により、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正(5%増→3%増)		
	JR津和野駅舎整備事業		なし	195	A=505㎡	平成29年12月に計画変更して関連事業から移動。町の玄関口としての整備効果を高めるため、JR西日本主体の事業から町主体の事業に移行。	JR津和野駅内に整備する「観光案内所の利用者数の増」について指標を追加	●	
事業活用調査	事業効果分析	1	-	1	-	なし	-	●	
まちづくり活動推進事業	JR津和野駅エリアまちづくり活動推進事業	2	-	2	-	なし	-	●	
	津和野城大手エリアまちづくり活動推進事業	1	-		なし	令和元年12月に計画変更して削除。津和野城山公園の整備事業を削除することになり、まちづくり活動を行うことが出来なくなったため、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正(5%増→3%増)		
	棚田広場エリアまちづくり活動推進事業	2	-		なし	令和元年12月に計画変更して削除。棚田交流広場の整備事業を削除することになり、まちづくり活動を行うことが出来なくなったため、本事業も削除。	文化財の復元等による歴史的資産の整備の一部を行わないため、関連する「地域住民の定住意欲の割合」の目標値を下方修正(5%増→3%増)		

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
休憩施設等整備事業(ポケットパーク)		-	33	33	平成28年～平成28年	平成28年～平成28年	平成28年度に旧SL館を撤去	
つわぶき安全センター移転事業		-	10	10	平成29年～平成29年	平成29年～平成29年	平成29年度につわぶき安全センターを移転	
つわぶき安全センター跡地・周辺一体型小広場整備事業(仮称)		-	20	20	平成30年～平成30年	平成30年～平成30年	旧SL館とつわぶき安全センター跡地を一体的な小広場として整備。向かいの移設されたSL展示とあわせ一体的な空間を創出している。	
津和野駅駅舎外観改修		-	150	なし	平成28年～令和2年			
藩校養老館整備事業		-	193	285	平成28年～平成29年	平成28年～平成30年	平成30年に改修完了。津和野観光の拠点として活用されている。	
駅前第二駐車場整備事業(仮称)		-	なし	9	なし	令和3年～令和3年	令和3年に完了し、観光客等に利用されている。	
SL駐車場展望施設整備事業		-	なし	0	なし	平成27年～平成28年	平成28年に完成し、SL到着後の賑わいの場となっている。	

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	JR津和野駅の乗車人員	人/日	JR西日本が集計している津和野駅の乗車数を活用。			231	H26	280	R3	モニタリング	—		モニタリング			●
										事後評価	確定見込み	●	132	事後評価	×	
指標2	駅前町営駐車場の年間利用台数	台/年	町が毎月集計している町営駐車場の利用台数を活用。			4,623	H26	6,000	R3	モニタリング	H30	7,514	モニタリング	○		
										事後評価	確定見込み	●	7,302	事後評価	○	
指標3	地域住民の定住意欲の割合	%	伝統的建造物群保存地区内に居住する住民アンケートを実施。地区内に住みたいと考える住民の割合を算出。			55.4	H25	58	R3	モニタリング	—		モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	68	事後評価	○	
指標4	観光案内所の利用者数	人/年	観光協会が集計している、観光案内所カウンター利用者数を活用。			12,100	H28	15,700	R3	モニタリング	H30	10,029	モニタリング	×		●
										事後評価	確定見込み	●	6,802	事後評価	×	

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	駅舎改修や駅前広場の整備が令和4年度に完了したことで広場でのイベント等の開催が増え、賑わいの創出を図ることができている。一方で、SLやまぐち号故障のための運休に影響を受け、見込んでいた乗車数を下回り、目標を達成できなかった。数値の傾向としては、SLが運休している令和3年では132人／日に対し、SL運休前の平成26年では231人／日と顕著に差が表れており、令和5年度よりSLの試運転も行われ、運転再開の兆しが見えていることから、今後SL復旧後には乗車人数が増加する見込みである。副次的な効果として、駅前広場をイベント等で活性化させることにより、津和野駅と紐づけし利用普及を行う予定である。	
指標2	駅前駐車場を拡大し、駐車台数を増加したことに加え、駅舎改修、駅前周辺広場整備事業によるイベント増、町道稲成丁線・河川広場整備事業、照明整備事業による観光の軸としての参道整備に加え、その中心に位置する養老館改修により歴史ある街並みや建物、文化をいかした誘客に取り組むことで、駅を拠点としたまち歩き需要が推進されたことが、目標値の達成に作用したものと考えられる。	
指標3	駅前周辺広場整備事業による玄関口の整備、町道稲成丁線・河川広場整備事業、照明整備事業による観光の軸としての参道整備に加え、その中心に位置する養老館改修により歴史ある街並みや建物、文化をいかした誘客に取り組むことで、街なかにおける日常の賑わい創出を図ったことなどが、目標値の達成につながっている。	
指標4	整備後まもなくであり、十分な効果を発揮できていないこと、SLやまぐち号の運休による利用者数減の影響を受け、目標値を下回ったが、次の理由により増加することが予想される。観光案内所が人目に多く触れるよう、駅構内の人通りの多い箇所へ配置した。また、JRから委託される形で、同駅構内に切符の窓口販売を設けることで、JR利用者や観光客が気軽に立ち寄れる施設となるようにした。副次的な効果として、駅周辺を整備したことによりイベント等の活用が想定されるため、観光案内所と紐づけを行い利用普及を行う予定である。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
※2 目標達成度の記入方法
○:評価値が目標値を上回った場合
△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
					基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	拠点観光施設(養老館) の入り込み数	人/年	観光入込客統計データを活用。			3,689	H27	モニタリング	H30	2,096	歴史的建築物であり、事業期間 内に改修され、街なか回遊の拠 点観光施設となった養老館の 入り込み数は、交流人口増加 状況を表すと考えられるため、 本事業による効果発現状況を 図る参考指標として取り上げ る。	
								事後評価	確定 見込み	● 5,798		
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・電動自転車のシェアサイクルの実証実験の実施により、電動自転車のレンタル需要を確認することができ、電動自転車を利用した津和野体験プログラムの実施など、地域の主体的な活動の推進につながった。地域住民と来訪者の交流機会の創出にもつながっている。

・駅前広場整備後、開通100周年・鷗外没後100周年イベントをはじめ、地域主体の芋煮の振舞、クリスマスイベント、警察の出動式等、広場を活用した様々なイベントが実施され、地域住民及び来訪者の出会いと交流、駅前の賑わい創出につながっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
歴史的風致維持向上協議会における都市再生整備計画の取組状況の報告。指標の達成状況を確認	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	●【実施頻度】5回 【実施時期】平成29年6月協議会、平成30 年6月協議会。令和元年6月協議会、令和2年6月協議会、令和3年6月協議 【実施結果】数値目標に対する進捗状況を確認し、事業の実施方法等を検証した。結果、整備の進む駅駐車場に係る指標2について計画通り成果をあげていることを確認。	引き続き、指標の状況を歴史的風致維持向上協議会において確認する。

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
JR西日本と協力・連携して駅舎改修に取り組む	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	●【協議頻度】1回／月 【実施期間】平成29年～令和2年 【実施結果】駅舎の改修について、JR西日本と綿密な協議を重ね、駅構内に津和野街並み観光交流センター機能を内包し、完成後無人化する駅の窓口機能を当センターが担うことで、利用者の利便性を維持継続することができた。	駅舎の運営は、津和野町観光協会を中心とした、地域主導による体制で行い、町は後方支援を行う。
事業の取組効果等を検証する住民アンケートの実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	●【実施頻度】1回 【実施時期】2月17～3月3日 【実施結果】重伝建地区住民から事業効果の発現状況についてアンケート形式で意見を聞いたことにより、まちづくりに対する住民の意識向上を割合として確認することができた。	公共施設整備等の検討にあたり、必要に応じて市場調査やワークショップ等を実施し、住民ニーズの把握に努めていく。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i . 体制構築に向けた取組内容	ii . まちづくり組織名：組織の概要	
ガイドの育成を進め、地区の魅力を発信するための体制づくりを推進	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	●組織の定期的な情報交換の場に参加し、団体間の連携を促進した。	【組織名】Yu-na推進協議会	住民がまちづくりに参加しやすい環境整備を進めるとともに、住民が相談しやすい行政組織となるように努めていく。
各地区の事業の推進にあたっては、関係機関・団体を中心とした管理体制を構築	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	●列車の運行はJR西日本が行うが、日常的な駅の窓口業務は、津和野町観光協会が行う。	【組織名】一般社団法人 津和野町観光協会	津和野町観光協会を中心とした、地域主導による体制で行い、町は後方支援を行う。
地域住民や地域活動団体と連携・協働し、津和野地区さらには町全体としてのにぎわい創出につながるよう、まちづくり活動を支援する。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	●令和4年8月に森鷗外没後100周年・津和野駅開業100周年記念事業記念イベントとして津和野駅から藩校養老館までパレード等を実施した。 令和4年11月に、秋のつわの鯉・恋・来いまつりとして、津和野駅から殿町通りの間で、実施した。	【組織名】森鷗外没後100周年・津和野駅開業100周年記念事業実行委員会 つわの鯉・恋・来いまつり実行委員会	各団体と連携・協働し、賑わい創出につながるよう、まちづくり活動を支援する。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(事後評価検討チーム)	関係各課主幹級職員(商工観光課(歴史まちづくり推進係)、建設課、総務財政課、つわの暮らし推進課、農林課、教育委員会文化財係)	第1回:令和4年6月22日 第2回:令和5年2月15日	商工観光課(歴史まちづくり推進係)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		その他の数値指標1			
指 標 名		駅前町営駐車場の年間利用台数		地域住民の定住意欲の割合		拠点観光施設(養老館)の入り込み数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【地域生活基盤施設】駅前周辺広場	○	駅前駐車場整備事業規模を拡大し、駐車台数を増加したことに加え、駅舎改修、駅前周辺広場整備事業によるイベント増、町道稲成丁線・河川広場整備事業、照明整備事業による観光の軸としての参道整備に加え、その中心に位置する養老館改修により歴史ある街並みや建物、文化をいかした景観形成が図れたことなどが、目標値の達成につながっている。	○	駅前周辺広場整備事業による玄関口の整備、町道稲成丁線・河川広場整備事業、照明整備事業による観光の軸としての参道整備に加え、その中心に位置する養老館改修により歴史ある街並みや建物、文化をいかした景観形成が図れたことなどが、目標値の達成につながっている。	○	街なか回遊の拠点エリアにある養老館の一時利用者が増加傾向にある。津和野城下町エリアとしての魅力向上により、交流人口が増加していると考えられ、事業の効果が発現していると言える。		
	【地域生活基盤施設】見晴らし広場	△		△		-			
	【地域生活基盤施設】稲成丁河川広場	○		○		○			
	【地域生活基盤施設】駅前駐車場	◎		-		○			
	【地域生活基盤施設】駐輪場整備	○		-		○			
	【地域生活基盤施設】情報板	○		△		○			
	【高質空間形成施設】モニュメント整備	○		○		○			
	【高質空間形成施設】町道稲成丁線	○		○		○			
	【高質空間形成施設】照明整備	○		○		○			
	【高質空間形成施設】多目的トイレ整備	○		-		-			
提案事業	【高次都市施設】津和野街並み観光交流センター	○		△		○			
	JR津和野駅舎整備事業	○	誘客に取り組むことで、駅を拠点としたまち歩き需要が推進されたことが、目標値の達成に作用したものと考えられる。	-		○			
	事業効果分析	-		-		-			
関連事業	JR津和野駅エリアまちづくり活動推進事業	○		○		-			
	休憩施設等整備事業(ポケットパーク)	○		○		-			
	つわぶき安全センター移転事業	○		○		-			
	つわぶき安全センター跡地・周辺一体型小広場整備事業(仮称)	○		○		-			
	藩校養老館整備事業	○		◎		◎			
	駅前第二駐車場整備事業(仮称)	◎		-		-			
	SL駐車場展望施設整備事業	○		-		-			

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○: 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
-: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	イベント広場として活用可能な駅前広場整備を行ったことから、今後は継続的なイベントを実施し、交流・賑わい拠点としての魅力向上を推進する。	歴史的建造物の復元や道路や広場の美装化を行い歴史的まちなみの維持向上をはかったことから、今後は町家などの空き家の活用などをPRするとともに、住民と連携したまちなか居住を促進していく。	駅周辺及びまちなかの拠点施設の整備を行ったことから、今後は駅を起点とした来訪者の回遊による滞在時間の増加に向けて、まちなかの魅力向上、他エリアとの連携を促進していく。
-------	---	---	---

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標4								
指 標 名		JR津和野駅の乗車人員			観光案内所の利用者数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【地域生活基盤施設】駅前周辺広場	△	駅舎改修や駅前広場の整備が令和4年度に完了したことで広場でのイベント等の開催が増え、賑わいの創出を図ることができている。一方で、SLやまぐち号故障のための運休に影響を受け、見込んでいた乗車数を下回り、目標を達成できなかった。数値の傾向としては、SLが運休している令和3年では132人／日に対し、SL運休前の平成26年では231人／日と顕著に差が表れており、令和5年度よりSLの試運転も行われ、運転再開の兆しが見えていることから、今後SL復旧後には乗車人数が増加する見込みである。副次的な効果として、駅前広場をイベント等で活性化させることにより、津和野駅と紐づけし利用普及を行う予定である。	Ⅲ	△	整備後まもなくであり、十分な効果を発揮できていないこと、SLやまぐち号の運休による利用者数減の影響を受け、目標値を下回ったが、次の理由により増加することが予想される。観光案内所が人目に多く触れるよう、駅構内の人通りの多い箇所へ配置した。また、JRから委託される形で、同駅構内に切符の窓口販売を設けることで、JR利用者や観光客が気軽に立ち寄れる施設となるようにした。副次的な効果として、駅周辺を整備したことによりイベント等の活用が想定されるため、観光案内所と紐づけを行い利用普及を行う予定である。	Ⅲ						
	【地域生活基盤施設】見晴らし広場	△			△								
	【地域生活基盤施設】稲成丁河川広場	△			△								
	【地域生活基盤施設】駅前駐車場	△			△								
	【地域生活基盤施設】駐輪場整備	△			△								
	【地域生活基盤施設】情報板	△			△								
	【高質空間形成施設】モニュメント整備	△			△								
	【高質空間形成施設】町道稲成丁線	△			△								
	【高質空間形成施設】照明整備	△			△								
	【高質空間形成施設】多目的トイレ整備	△			△								
	【高次都市施設】津和野街並み観光交流センター	△			△								
提案事業	JR津和野駅舎整備事業	△			△								
	事業効果分析	-			-								
	JR津和野駅エリアまちづくり活動推進事業	△			△								
関連事業	休憩施設等整備事業（ポケットパーク）	△			△								
	つわぶき安全センター移転事業	-			-								
	つわぶき安全センター跡地・周辺一体型小広場整備事業（仮称）	△			△								
	藩校養老館整備事業	△			△								
	駅前第二駐車場整備事業（仮称）	△			△								
	SL転車場展望施設整備事業	△			△			-					

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	外的要因に左右される大規模イベントによる集客とは別に、日常的な集客につながる取組を促進する。 ・駅を拠点としたサイクルツアーの取り組み推進 ・駅を拠点としたまちなか回遊促進。 ・駅前広場活用した定期的なイベント実施	外的要因に左右される大規模イベントによる集客とは別に、日常的な集客につながる取組を促進する。 ・民間団体主体によるサイクルツアーの取り組み推進 ・テーマ性のあるおすすめスポットを紹介するなど、まちなか回遊促進。 ・町家（空き家）見学会など、まちなかの魅力発信。		
------------------	--	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(事後評価検討チーム)	関係各課主幹級職員(商工観光課(歴史まちづくり推進係)、建設課、総務財政課、つわの暮らし推進課、農林課、教育委員会文化財係)	第1回:令和4年6月22日 第2回:令和5年2月15日	商工観光課(歴史まちづくり推進係)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
①歴史的史跡の活用 ・津和野ならではの歴史文化のネットワーク、周遊ルートが構築されていない。 ・照明施設の老朽化により夜の景観が活かされていない。	・解説サイン、誘導サインなどを整備し、登城路や旧城下町の観光に利用されている。 ・照明施設の整備により、夜の回遊性が向上した。	駅からまちなかの回遊性は向上したが、まちなかと国道9号沿いの見晴らし広場への周遊ルートが構築されていない。	サインにより回遊性を高めたが、歩道が狭く、老朽化もしており、歩行者、自転車、安全・快適に通行できる空間となっていない。
②歴史的な街並み景観を眺望できない ・町を眺望できる国道9号沿いに、老朽空き家が長期わたり放置されており、歴史的町並みを阻害している。	・国道9号沿いの景観を阻害する空き建築物を解体したことで景観向上を図ることができた。さらに、跡地を見晴らし広場として整備し、歴史的町並みを眺望できる場所を創出できた。	国道9号沿いには、歴史的まち並みの眺望を阻害する要素が残されている。	
③町の玄関口の賑わい創出 ・駅舎、駅前周辺の環境が歴史的なまちを印象づけるものでなく、賑わいや拠点性が感じにくい ・稲成神社参道沿いの空き家や荒廃した広場、参道の連続性がない。	・駅舎改修や駅前広場の再整備を進めたことで広場でのイベント等の開催が増え、賑わいの創出を図ることができている。 ・参道及び広場の美装化により、参道としての連続性が確保され、観光客の円滑な誘導が図られている。	駅利用者が減少している。 日常的に町民が利用する場となっていない。 駅周辺や参道沿いに老朽空き家があり、景観を阻害している。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	整備した施設の利活用促進・維持管理	整備した施設について、来訪者及び地域住民の利活用を推進する取組を行うとともに、利用しやすい環境、サービス提供に向けた維持管理を行う。	・駅前広場の定期的なイベント活用 ・観光交流センター、見晴らし広場等の利用促進、維持管理 ・シェアサイクルの維持運用
	重伝建地区の魅力向上	歴史・文化資産の魅力の深掘り、情報発信等、重伝建地区の魅力向上に取り組む。 歴史的な街並みをいかした住環境の整備を促進し、日常的な賑わい創出に取り組む。	・伝統的建造物の解説サイン、案内マップ等の作成 ・町家(空き家)活用の促進(情報発信) ・新丁、万丁通りのまちなみ整備推進
	住民等の理解と参加・協働による取組展開	多様な世代の住民が地域の歴史文化遺産の魅力をすることで、まちへの愛着を高める機会を創出し、持続的に歴史的風致が維持される土壌形成を推進する。	・学校教育との連携 ・住民への歴史文化遺産に関する普及啓発 ・各地域における歴史文化遺産の維持管理等の組織づくり ・文化財等の活用団体への支援

B欄 改 善 策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	まちなみ眺望を阻害する要素の解消	国道9号沿いの景観を阻害する老朽建築物等の対策を推進し、景観向上を図る。	・国道9号沿いの老朽建築物の除去 ・国道9号沿いの斜面林等の維持管理
	駅及び駅前広場の利活用推進	駅舎、駅前広場の利活用促進に加え、駅周辺の老朽危険建物の改修、空き店舗等の利活用促進を行うことで、駅周辺の景観の向上、日常的な賑わい創出に取り組む。	・駅舎を活用したマルシェ等開催 ・駅を拠点としたサイクルツアーの取り組み推進 ・駅を拠点としたまちなか回遊促進。 ・駅前広場を活用した定期的なイベント実施 ・駅周辺の空き家活用推進 ・駅周辺の老朽建築物の改修
	周遊ルートの整備、道路等の整備	まちなかで見晴らし広場、城山方面をつなぐ回遊ルートを整備し、来訪者のまちあるきの魅力向上、住民の日常的な施設の利活用を促進する。	・遊歩道整備 ・棚田広場の整備(駐車場スペース、広場) ・稲成丁線周辺整備

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

公共施設整備等の検討にあたり、必要に応じて市場調査やワークショップ等を実施し、住民ニーズの把握に努めていく。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度		年度							予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	JR津和野駅の乗車人員	人/日	231	H26	280	R3	確定	●	132	×	あり			
							見込み				なし			
指標2	駅前町営駐車場の年間利用台数	台/年	4,623	H26	6,000	R3	確定	●	7,302	○	あり			
							見込み				なし			
指標3	地域住民の定住意欲の割合	%	55	H25	58	R3	確定	●	68	○	あり			
							見込み				なし			
指標4	観光案内所の利用者数	人/年	12,100	H28	15,700	R3	確定	●	6,802	×	あり			
							見込み				なし			
指標5							確定				あり			
							見込み				なし			
その他の数値指標1	拠点観光施設(養老館)の入り込み数	人/年	3689	H27			確定	●	5,798					
その他の数値指標2							確定							
							見込み							
その他の数値指標3							確定							
							見込み							



添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		外的要因の影響を受けにくい、安定した事業成果の計測が可能な数値目標の設定を検討する必要がある。
	うまくいかなかった点	交流人口の増加を計る指標として観光案内所の利用者数、JR津和野駅乗車人員を用いたが、新型コロナウイルス感染対策のための人の動きの変化、多数の観光客を見込んでいた集客イベントが新型コロナウイルス感染症の町内拡大の影響を受け、規模縮小を余儀なくされ、見込んでいた入り込み数を下回ったことなどから、本指標を用いた成果の把握が困難となった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	指標2. 駅前町営駐車場の年間利用台数について、都市再生整備計画の変更計画作成時に、より効果を得られる事業に変更し、大幅に目標を達成した点。	都市再生整備計画の変更計画作成時に、指標の達成状況の確認を行い、必要に応じて事業の内容を変更することは、目標と事業の整合性が高まり数値目標の達成に有効であると考ええる。
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		各種整備にあたっては、利用者の声を反映した事業の実施方法を検討する必要がある。
	うまくいかなかった点	事業の取組効果等を検証する住民アンケートにおいて、事業実施において、もっと幅広く住民の意見と取り入れてまちづくりを進めて欲しいという意見が複数あった点。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	毎年、津和野町歴史的風致維持向上協議会において、事業の進捗状況と成果を示し、意見を聞くことにより、事業の実施方法等の再検証を行うなど、PDCAによる事業推進を行った。	交付期間中の事業の進捗状況の確認は、事業の実施方法等の検証を行う上でも、外的要因による計画の見直しを行う上でも有効であることから、定期的の実施していくことが重要である。
	うまくいかなかった点	実施において、災害等の外的要因で計画通りに行かなかった点。	
その他	うまくいった点		

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

今後の都市再生整備計画事業の活用予定

城下町地区のさらなる賑わい創出を図るため、都市再生整備計画事業の活用も見据え、検討を行う。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	令和5年6月27日	令和5年6月27日～7月4日	担当課への 意見書、ファックス、電 子メール	商工観光課（歴史的ま ちづくり推進係）
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					
住民の意見	特になし				

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	なし	令和5年6月	商工観光課(歴史的まちづくり推進係)	津和野町歴史的風致維持向上協議会設置要綱	既存組織(津和野町歴史的風致維持向上協議会)
その他の委員	商工会会長(会長)、景観審議会会長(副会長)、文化財保護審議会会長、民俗芸能保存協会会長、観光協会副会長、島根県文化財課長、総務財政課長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	特になし
	実施過程の評価	特になし
	効果発現要因の整理	特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	特になし
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きの進め方が妥当であることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	整備後の活用方法について、今後注視してほしいという意見があった。情報発信をどう行っていくかをよく検討してほしいという意見があった。担い手の不足が一番難しく重要な課題である。後継者の確保は大変だと感じている。観光にも直結する問題であるため、官民一体となって努力していく必要があるという意見があった。オーバーツーリズムにならないように注意する必要があるという意見があった。
	フォローアップ	特になし
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策が妥当であることが確認された。
その他		特になし

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。